僕がムケるまで～B君篇

ｋｏｄｏｍｏｚｕｒｕｍｕｋｅ

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

このＰＤＦファイルは小説家になろうグループサイトで掲載中の作品をＰＤＦ化したものです。

このＰＤＦファイルおよび作品の取り扱いについては、小説家になろう利用規約が適用されます。そのため、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止いたします。作品の紹介や個人用途での印刷および保存にはご自由にお使いください。

【作品タイトル】

僕がムケるまで〜Ｂ君篇

【Ｎコード】

Ｎ６２７３Ｘ

【作者名】

ｋｏｄｏｍｏｚｕｒｕｍｕｋｅ

【あらすじ】

第２話です。読みきりですのでこちらからでもどうぞ。

僕は中学生になるまで、性器の皮を剥いたこともありませんでした。
親からは何も教えてもらったことがありませんでした。
皮が剥けるということを知ったのは中学1年生の冬に行われた陸上部の合宿のときでした。
当時高校1年生だった先輩が、いろいろと教えてくれました。先輩も包茎でした。
そのときは僕も恥ずかしくて、聞き流したふりをしていました。
でもしっかり必要な情報は手に入れました。

合宿から帰ると早速自分で剥くことをはじめました。
幸いにして痛みなく、平常時も勃起時も剥くことができました。
毎日ひたすら剥きつづけていました。
そのうち剥けはじめ、中学2年生になる頃には普段でも半分くらい亀頭が出ているようになりました。

中学2年生の夏前、その先輩から「剥いてるか」と聞かれたので、「半分剥けてます！」と答えました。先輩はまだドリル型のようで、驚いていました。
でも先輩は、「早く完全に剥けたいか？教えてやろうか」と言って来たのでお願いしました。
先輩は「思い切って力を入れて溝の下まで剥いてみろ、戻らなくなるぞ」と教えてくれました。

そこで夏休み前のある日、風呂場で思い切って剥くことにしました。
先輩の言うとおり、皮が溝のところでとまって被らなくなりました。
こうして僕は中学2年生の夏休み前にズルムケになったのです。
夏休み明けには手で被せてもまた戻ってしまうくらい癖がついていました。
その後、時々トイレで覗いてくるやつがいましたが、堂々と見せることができました。